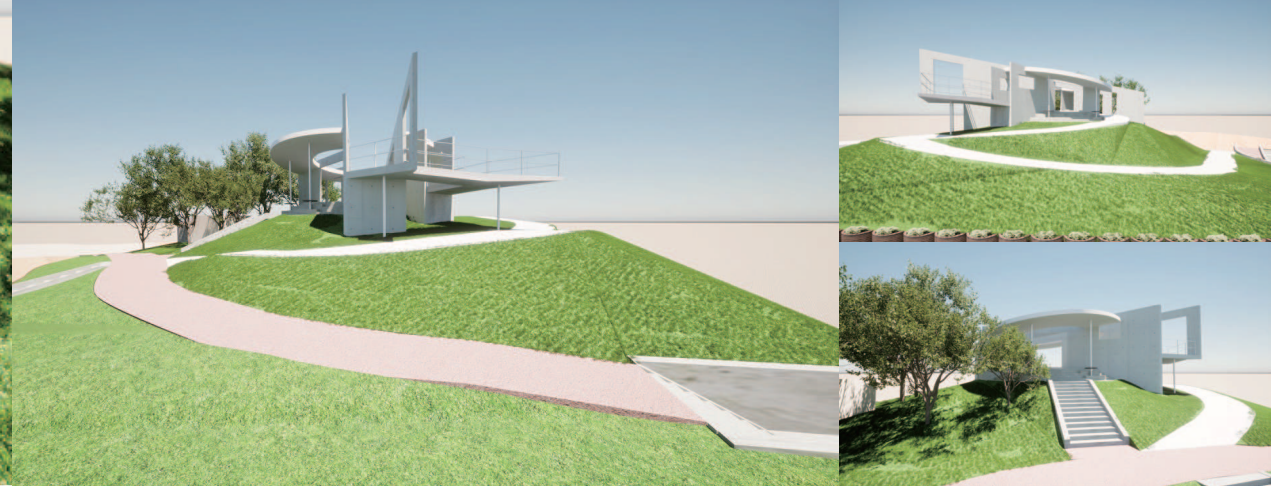
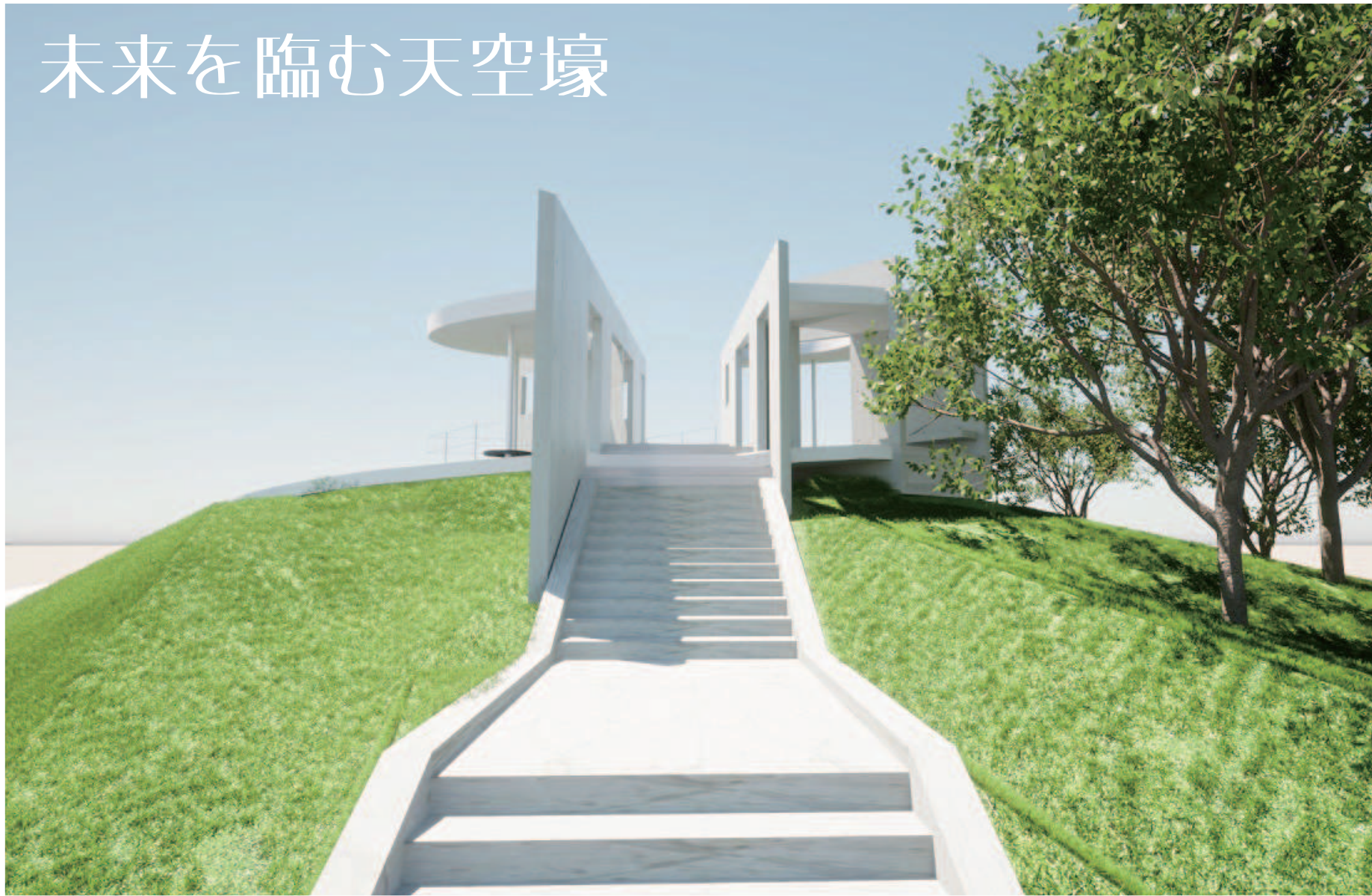


# 未来を臨む天空壕



## 海軍壕の対となる 未来を臨める展望台を提案します

今年で戦後77年になる沖縄。戦争体験者は徐々に少なくなり、今や県民の約9割が戦後生まれとなっている現状があります。また、平和学習の場として活用されてきた自然洞窟やガマも劣化が進み閉鎖される場所も出てきており、**戦争の記憶の継承がより重要**な時代になってきています。そのような中、ここ海軍公園には旧海軍司令部壕というビクターセンター内にある地下壕が今もなお存在し、資料館と共に見学できる貴重な場所となっています。また、自害する際に使用した手榴弾の弾痕や湿度の高い壕内環境等、当時の凄惨な状況を直接肌で感じ取れる場所ともなっています。しかし、それは記憶の継承という意味では重要な空間体験できる場所である反面、負の感情が渦巻く影響でマイナスな印象が強い場所とも言えます。そこで今回は、地下壕の空間をモチーフに、前を向き未来を臨める展望台・休憩所を提案します。

### 計画地の課題点



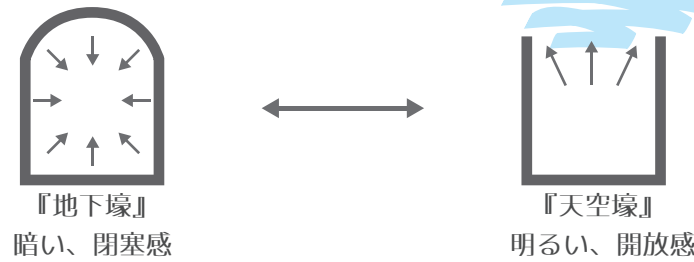
計画地の現況として、どの方向も見晴らしは良く、海だけでなく緑や那覇・豊見城の今の街並みが眺望できます。しかし、慶良間諸島の方向は団地や森で隠れてしまっています。また、計画地内にあるスロープについて、勾配は確保できているものの、踊り場が無く劣化もしている為、バリアフリーを考慮すると再整備が必要だと考えています。

### 旧海軍司令部壕(地下壕)について



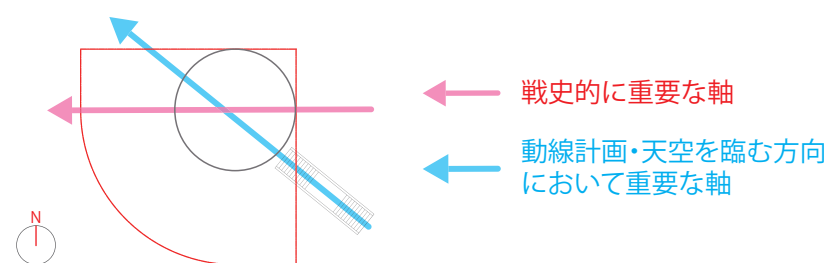
地下壕は本計画地の地下に巡っており、照明があるとはいえ薄暗く湿った環境となっています。また、地下壕の幅は0.9~2.1m、高さは2.15m程度の為、閉塞感の強い場所となっています。なお、通路の所々に凹みがあり、そこは戦時中に部屋として利用されていましたが、寝室とは名ばかりで大勢の人が立ちながら睡眠を取る等、かなり厳しい環境だった事が伺えます。

### 1.地下壕と対比の建築を考える



今回の計画では地下壕とリンクした形となるように、地下壕と同様の幅で壁を構成します。しかし、天井はアーチ形状の屋根ではなく、天空事態を屋根と捉え、『天空壕』と名付けます。

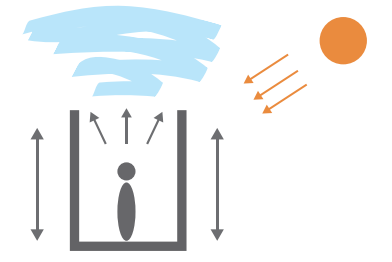
### 3.敷地内の重要な軸を決める



本計画地の西には慶良間諸島があり、ここは米軍が侵略した際に最初に上陸した島で、戦史的にも重要な場所となっています。また、ビクターセンターや地下壕の出口からの動線、太陽の影響の少ない青空の臨みやすさを考慮すると、南東側の階段からのアプローチが重要となります。以上より、この二方向を軸とし、天空壕を設けます。

### つくりかた

#### 2.天空壕の形を整える



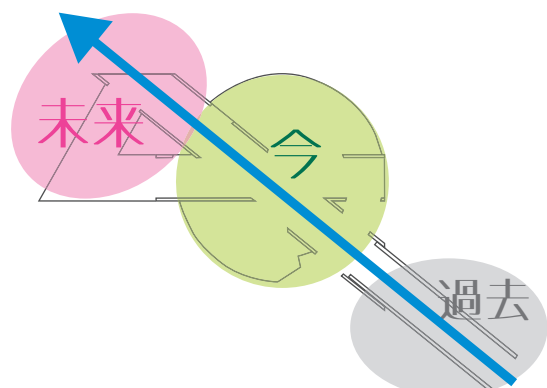
天空壕の壁を地下壕よりも高く構成する事で、平和の象徴である青い空がより強調されます。また、壁が高くなる事で日差しを避けやすくなり、より青い天空の存在を感じやすくさせます。

#### 4.人の居場所づくり



地下壕の部屋のような配置で重なり合う天空壕の間隙を人の居場所として計画する。屋根は平和の樹をモチーフに輪で構成し、自然豊かな環境で休憩しながら市街地や海、緑を臨めます。また、今後のアプローチのし易さにも配慮して、計画地南東側からもスロープを設ける準備を考えています。

本建築の在り方



昇るとい動作と空間構成、眺望を2つの軸に沿って組み合わせる事で過去、現在、そして未来の時間軸を感じれる建築を目指しました。



壁により空が強調された天空壕の通路が来訪者を誘う

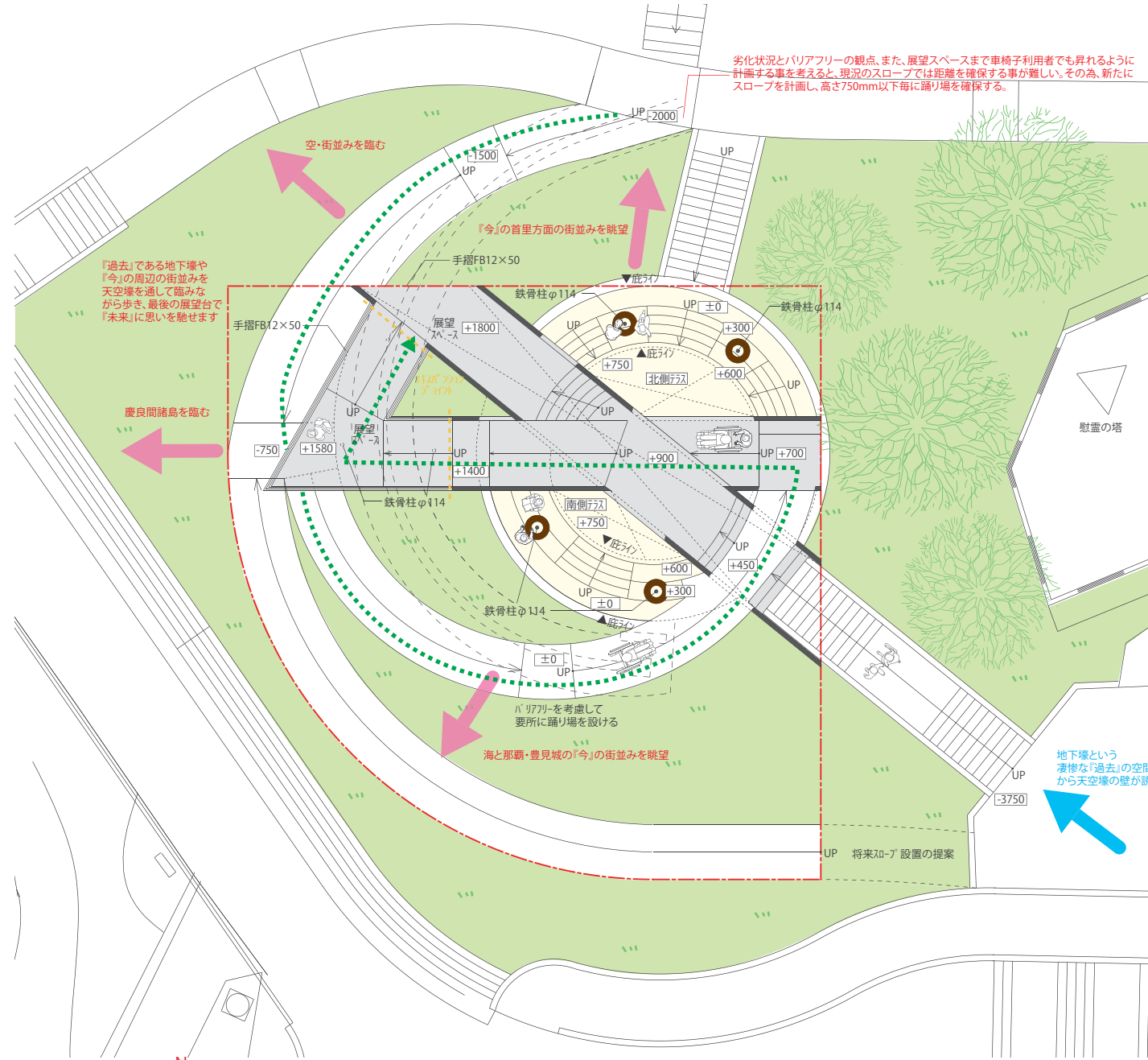


天空壕の中に入るとより空が強調される



天空壕を進むと開けた場所に出て眺望を楽しめる。

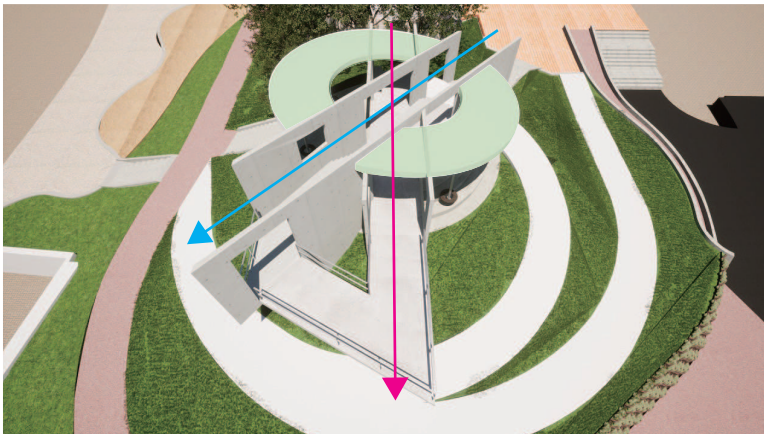
南東側からアクセスすると、天空壕の壁により強調された空を臨みながら展望スペースへと昇っていきます。



平面図  
Scale=1/150



誰でもなるべく高い位置からの眺望が出来るよう、現状の計画地から最大で1800mmまで床レベルをあげる計画としました。

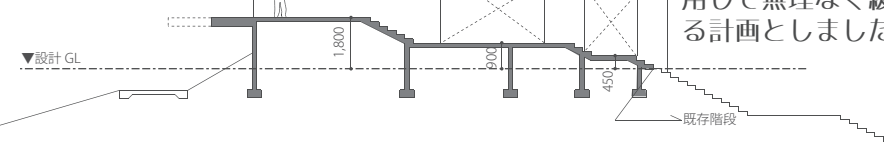


2つの軸を意識した天空壕の壁と、平和の象徴として輪の屋根を組み合わせる事で、この地に訪れた人々にそれとなく眺望の方向を示してくれます。



南東側以外でもアクセスのしやすいアプローチ計画となっています。

断面図  
S=1/300



展望台の一番高い場所までは階段、もしくはスロープを利用して無理なく緩やかに昇れる計画としました。



北側テラスは中央をアプローチとしての利用をしつつ、慰霊の塔裏側にある樹による落ち着いた空間で休憩しながら、首里方面の『今』を臨む事ができます。



緩やかな勾配で車椅子利用者もアクセスしやすい計画とし、中間地点では休憩できる踊り場を計画します。



南側テラス側は日差しを遮る為、海に向かって開放的に休憩する事ができ、那覇・豊見城の『今』の街並みを眺望する事ができます。

設計概要  
階数：地上一階建て  
構造：壁式鉄筋コンクリート造+鉄骨造  
建築面積：45.869㎡  
延床面積：66.749㎡

仕上げ：壁 打放しコンクリート フッ素樹脂クリア  
床 土間コンクリート刷毛引き仕上げ(天空壕)  
床 屋外用磁器質タイル(北側・南側テラス)  
屋根：ウレタン防水塗装  
屋根側・軒天：複層塗装シリコン上塗り